様式1（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	吉野ヶ里町立三田川中学校

1　前年度 評価結果の概要	・ 学校目標「夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成」の目標達成に向けて、コロナ禍の中であったが様々な行事の工夫や授業時間を確保し生徒の夢実現のための支援に取り組んだ。毎週、生徒支援委員会を行い、月１回不登校等支援ネットワーク会議を開くことにより、不登校等の早期発見と早期対応を行い、様々な対策を個別に行ってきた。スクリーニング会議を行い生徒の変容を全職員で共有し、生徒が抱える課題への早期対応につなげることができた。 ・学習面では「わかる授業」を目指してR80を活用した授業の振り返りや、教職員の指導力の向上のため提案授業を年10回実施した。前サポ、後サポを実施し、より良い授業の在り方について研究を進めた。また、12月の校内研修で学習評価のあり方を協議し、評価について研鑽を深めた。 ・時間外勤務の縮減について、「出勤は7:30以降」についてはほぼ達成できた。また、定時退勤日に意識して退勤できている職員が増えた。平日の時間外勤務は、ほとんどの職員が減った。今後は計画的な行事の準備、分掌事務等個々にかかる負担を分担するなど改善する必要がある。
2　学校教育目標	**夢実現に挑戦し、努力する生徒の育成**
3　本年度の重点目標	**(1)　不登校対策及び特別支援教育の充実　　(2)　学力向上** **(3)　人権・同和教育の推進　　(4)　教職員の時間外勤務の縮減**

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の推進を図る。	A	・校内研究会等を通じて、学力向上対策シートについて共通理解を図った上で、全職員がマイプランを2回作成し授業改善に務めることができた。
	○基礎的・基本的内容の確実な定着を目指した指導方法の改善 ○授業づくりのステップ1･2･3を意識した授業づくりにより、学習内容の定着を図る ○ICT機器の活用による授業の効率化と分かる授業の実践	○定期テストの平均点70点以上 ○職員アンケートで「授業づくりのステップ1･2･3のステップ2まで実践できた」「R80等を取り入れた振り返りができた」という回答80%以上 ○タブレットPCの授業での活用100%	・課題の設定、評価方法、ICT利活用等に関する提案授業及びそのサポート会を通じて、授業改善を図る。 ・職員間で「めあて」「振り返り」の実施状況を共有し意識を高め合う。 ・タブレットPCを授業の中で無理なく効果的に活用できるよう職員研修を充実させる。	B	・ほとんどの職員が生徒に振り返りをさせていたが、ステップ2以上の目標を達成できたとする回答がは80%だった。 ・ほとんどの職員が、ICT機器を活用して生徒の興味・関心を高めようと工夫しており、タブレットPCを十分に活用できたとする職員は60%、授業で活用できたとする職員は90%だった。 ・職員研修を年に4回行うことで、スキルアップを図ることができた。 ・タブレットを家庭に持ち帰らせ、課題等に利用させることができた。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業の振り返りにおいて、新しい価値を見出したり、自身の内面や考えの変化に気付いたりすることができた生徒80%以上を目指す。	・道徳の授業づくりに関する校内研修の実施（講師を招聘） ・「ふれあい道徳」の授業を保護者に周知し、道徳の授業への理解を深めてもらい、家庭・地域での教育力向上につなげる。	B	・道徳科の授業づくりに関する研修会を実施することができなかったが、各学年全職員が授業を行い、授業づくりの情報共有を行った。 ・保護者や地域の方が参画したふれあい道徳をコロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。 ・規則正しい生活習慣を身につけることに関しては、約3．0%の生徒は、昼夜逆転等の理由で体調不良や遅刻をする生徒がいた。 ・感染症予防に関しては、学校内では「健康観察シート」を頼りに、規定に沿って予防はできている。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●QUの要支援群の生徒の割合を5%以下にする。 ●生徒支援委員会(教育相談部会+特別支援教育部会)を毎週1回実施する。	・定期の生活アンケート、早期発見につなげる教育相談の実施方法の工夫 ・SC、SSWと計画的支援をしていく。 ・生徒指導協議会、生徒指導委員会で、いじめ問題の対応について研修を実施し、実践していく。	A	・定期のアンケートや日々の言葉かけを意識して生徒理解に努めているため、いじめ問題の早期発見ができていることが多い。しかし、いじめ問題を起こさせない雰囲気づくりへの課題が残っている。今後は生徒理解に一層努めていきたい。 ・SSWの活用に関しては、連絡系統を明瞭にして、連絡・報告不足の充実を図りたい。 ・SCの活用に関しては、カウンセリングを計画的に実施できた。現在、相談件数が増えつつあり、時数の増加が望まれる。
	◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした生徒90%以上 ◯生徒会活動の活性化を行い、生徒の様々な行事での満足度を80%以上 ◯特別支援教育における教職員、保護者の満足度70%以上	・生徒の資質や能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種体験活動では、活動の見通しと振り返りを行う活動を仕組む。 ・生徒の視野を広げ、生き方や夢につながるような講演会を実施する。 ・生徒が主体的に活動する生徒会行事や集会を企画・実施する。 ・生徒の個性や特性を生かした特別支援教育実施のため、地域や専門機関と連携を図る。	B	・コロナ禍で、昨年度より研修や専門機関との関わりが少なかったが、小学校との対面での交流会や行事等も行うことができた。予定していた計画を実施することができた。 ・コロナ禍で新たに企画した取組はできなかったが、行事や集会の実施は生徒会が中心となり、主体的に行うことができた。
●健康・体つくり	「望ましい生活習慣の形成」 ●感染症予防対策 「安全に関する資質・能力の育成」	○（学校独自成果指標） ○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする ○新型コロナ感染症を予防する	・規則正しい生活習慣を身につけ、ゲーム依存やLINE中毒などに陥らないように「ネットワーク5原則」を遵守し、規範意識を高める。 ・感染症の予防をする ①三密を避ける ②手指の消毒 ③換気 ④湿度の保持を図る	B	・情報機器の正しい使い方を理解し、規則正しい生活を送れるよう、朝の時間を活用して啓発活動を行った。
	○「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食の喫食率90% ○給食の残食数を昨年度より削減	・毎日の給食指導や学活、授業などの学習指導で食の大切さを学習し、学校全体で食育や健康増進に努める。	A	・食習慣チェック表より93%の生徒が朝食を食べていることがわかり、食育の取り組みの効果があった。 ・給食の残食の削減は学校全体で取り組んだが、昨年度より削減することはできなかった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・タイムマネジメントの意識化（出勤は7:30以降等） ・定時退勤日の遵守 ・出張の際は、勤務時間以降は帰宅する。	B	・タイムマネジメントを意識した業務遂行は向上してきている。今後さらに業務内容の吟味を行い、改善を図っていきたい。
	○適切な部活動の在り方についての研修と実践	○部活動の運営を組織的に行い、活動時間のガイドラインを遵守する。	・複数顧問体制の中で、交代して指導をしたり、役割を分担して、負担の軽減につなげ、部活動の運用を適切に行うように努める。	A	・ガイドラインは遵守できているが、今後は2人体制で交代し部活動を行うことが業務改善には有効であると考えるが、十分には実施できていない。保護者への理解もふくめ改善に努めていく。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果
○開かれた学校づくり	○コミュニケーションスクールの実施に向けた取組	○実施に向けた組織をつくる。 ○関係者の実施に向けた理解度80%以上を目指す。	・運営協議会の複数実施で、理解と協力を得る。 ・先進校への視察や問い合わせで課題の解決を図る。	B	・学校教育課・社会教育課・学校での協議会を行うことができた。 ・各方面への周知をして、協議会委員選出に向け動き出すことができた。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学習面では「わかる授業」を目指して、R80等を取り入れた振り返りを行うことで、生徒の学力向上を目指した。ほぼ全職員がステップ2以上の目標達成とタブレットの授業活用90%を達成した。職員相互授業参観やタブレットPCのミニ研修を行い、教師の指導力向上を目指した。次年度も継続していく必要がある。 ・不登校生徒対策として別室登校や支援センターとの連携を行うことで、まったく登校できない生徒減を目指した。次年度は居心地のよい学級・学校づくりに取り組む、SCやSSWとの連携や教育相談の充実で不登校生徒を減少させていきたい。